

2009.
5.15 [FRI]

18:30 OPEN
19:00 START

沖縄県立博物館・美術館
3F 講堂

申込方法: 当日先着200名

このイベントは
「アトミックサンシャインin沖縄」
展覧会チケット(または半券)が
必要となります。

ARTICLE

「お国は?」「沖縄ですが、何か?」 ネーションとアイデンティティの対話

今年もまた、「復帰の日」がやってきます。沖縄の本土復帰を巡って、これまで大量の言葉が生み出されてきました。それらの中には、沖縄だけで流通消費するものもあれば、その逆に、主に沖縄の外で流通して消費されているものもあるでしょう。ある時期だけの流行りものもあれば、ある世代だけに通じる叙情的なものもあるかもしれません。「民主主義の教室」において常に「居残り組」の私たちは、これまでに何を学び、そしてこれから何を学んでいくのでしょうか。

平和憲法と戦後美術をテーマにした「Into the Atomic Sunshine in Okinawa」展の幕を閉じるにあたって、基地(Base)、平和憲法(Constitution)、日米安保条約(Treaty)という究極のアジクーター・メニュー——BLTならぬBCTサンドウィッチをその「教室」の片隅で噛みしめつつ、吟味しようと思います。熱くそして冷静なパフォーマンスと討議を通して、理論・表現・生活といった諸相から見える「復帰」の意味を改めて考えます。私たちが住む場所から、ネーションとアイデンティティについて「今の言葉」を残していければと、願っています。

パネリスト

萱野稔人、知念ウシ、渡辺真也

コーディネータ

前高西一馬

萱野稔人(かやのとしひと)

1970年生まれ。2003年パリ第十大学大学院修了。哲学博士。津田塾大学国際関係学
科准教授。著書に「国家とはなにか」(以文社)、「カネと暴力の系譜学」(河出書房新社)、
「権力の読みかた? 状況と理論」(青土社)など、共著に「生きづらさ」について? 貧困、
アイデンティティ、ナショナリズム」(光文社)などがある。

知念ウシ(ちにんうし)

1966年那覇市首里生まれ。むめかちやー。津田塾大学・東京大学卒業。共著に「人類
館一封印された扉」(アットワークス)「あなたは戦争で死ねますか」(NHK出版)「権
民者へーポストコロニアルという挑発」(松籟社)などがある。また「沖縄タイム
ス」にて「ウシがゆく」を2005年7月から今年3月まで連載。2006年ス タンフォード
大学シンポジウム「沖縄と日本におけるジェンダー、植民地主義、軍事主義」にて発表。
ピース&グリーンポート2008東アジアクルーズにて水先案内人を務める。

渡辺真也(わたなべしんや)

1980年静岡県沼津市生まれのキュレーター。日本とアメリカにて経済学を専攻後、
ニューヨーク大学大学院にて美術修士課程を修了。世界35カ国を放浪していく過程
で、国民国家とアートとの関係性をテーマとした国際美術展を製作する機になる。

前高西一馬(まえたけにしかずま)

1971年那覇市生まれ。コロンビア大学人類学部博士課程修了。文化人類学・沖縄研
究。現在、早稲田大学琉球・沖縄研究所客員研究員、明治大学兼任講師。論文に、「文
化を濁く、言葉を焼くー沖縄の近代性と共同体に関する民族誌的断章ー」(『琉球・
沖縄研究』第2号、早稲田大学琉球・沖縄研究所)などがある。

In to the .
Atomic
Sunshine
in Okinawa

Post-War Art under
Japanese Peace Constitution Article 9

クロージング・シンポジウム